

社会から求められる人材 part2 「できる理由」を考える人

実力テストの結果が返り、満足のいく結果が出ましたか。夏休みの学習の成果が結果として反映されたでしょうか。今回のテスト結果の反省のもと、次のステップへの課題を明確にしてください。そこで、皆さんに物事の考え方についてのアドバイスです。数年前、ある企業の人事担当者に聴いた「面接の着目点・企業が必要とする人物像」について紹介します。

その企業では、1万人近い入社希望者の中から、毎年、6人ほどしか採用しないそうです。その6人を選ぶポイントは、「相手の立場に立って物事を考えられる人物」「失敗を恐れずにチャレンジする心を持っている人物」だそうです。この性格を見抜くために、いろんな面接を数回行い、徐々に選抜して行くそうです。面接試験のとき、その場限りのアピールでごまかしても、経験を積んだ人事担当者には、繰り返される面接の中で、見極められてしまうそうです。

ある調査会社が、人生に成功した人と失敗した人の違いを調べました。会社の上司から仕事を頼まれたとき、そのタイプが二つに分かれます。

「できない理由を必死に言うタイプ」と「できる理由を探そうとするタイプ」です。

前者は、「やったことがないので…」「時間が足りないので…」「うまくやれる自信がないので…」要は、新しいことをするのに消極的で、できない理由を必死に探し、言い訳ばかりする人です。

後者は、「やったことがないからこそやってみる価値がある…」「時間は足りないけど、時間内にやり遂げる工夫がある…」「ものの見方を変えれば、違うものが見えてくる…」と考え方を工夫して、できる理由を模索し、進んでチャレンジする人です。

2学期は、いろいろな行事があります。自分を鍛えるチャンスです。先生やクラスの仲間、部活動の仲間からいろんなことを頼まれることがあると思います。そのとき、「できない理由」を先に考えるのではなく、「できる理由を考える」人になって欲しいと思います。そして、実行するときは、相手の立場に立って物事を進められるようにしてほしいと思います。そのように培われた性格は、将来の進路決定で大きく生きてくると思いますし、将来の人生を成功させるコツだと思います。

後期生徒会・学級委員決定 みんなの力で更なる前進を!!

9月14日（金）6時間目、平成30年度後期生徒会選挙立会演説会が行われました。

生徒会活動の運営の中心が、3年生から2年生に引き継がれます。前期生徒会執行部を経験した2名に、新役員3名が新たに加わりました。

会 長	2年2組	中森 彩華
副会長	2年3組	高橋 良太
	2年1組	中林 優
書 記	2年2組	藤川 太一
	1年2組	合志 未希

体育館での立会演説会では、5名の立候補者が生徒会活動の活性化に向け、それぞれの決意を表明しました。10月1日（月）の全校集会で、認証式が行われ、後期の各学級委員とともに、新しい生徒会がスタートします。

『現状維持では、後退するばかりである』

ディズニーランドの創始者、ウォルト・ディズニーの言葉です。それぞれの役割に責任を持って取り組んでいくとともに、桜宮中学校の更なる発展に向け、新たな取組にチャレンジしてくれることを期待しています。



平成 30 年度「全国学力・学習状況調査」質問紙調査結果速報

今号では、平成 30 年 4 月 17 日（火）、3 年生を対象に実施した「全国学力・学習状況調査」の質問紙調査結果についてお知らせいたします。

<自己有用感・規範意識>

自己有用感とは、他者の存在を前提として自分の存在価値を感じる、誰かの役に立ちたいという成就感、誰かに必要とされているという満足感のことです。また、規範意識は、きまりを守ることや他者との関わりを大事にするなど社会のルールを守ろうとする意識のことです。

自己有用感では、右上図のように『自分によいところがある』の項目に「当てはまる」と回答した生徒は 2.4 ポイント全国平均を上回りました。また、『人の役に立つ人間になりたい』の項目においても 4.0 ポイント上回りました。規範意識では、『学校の規則を守っている』の項目に「当てはまる」と回答した生徒は 4.1 ポイント上回りましたが、『いじめは、どんな理由があってもいけない』の項目においては全国と同率でした。

<基本的生活習慣・学習習慣>

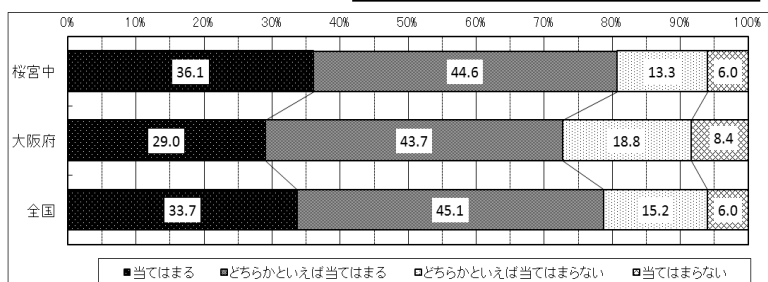
この項目では、多くの項目で全国平均・大阪府平均を下回りました。全国平均と比較し、『朝食を毎日食べている』は 2.6 ポイント、『毎日同じくらいの時刻に寝ている』は 1.9 ポイント、『毎日同じくらいの時刻に起きている』は 5.3 ポイント低くなっています。

また、『自分で計画を立てて勉強している』と肯定的な回答をした生徒は全国平均を 19.6 ポイント、『学校以外に 1 日 2 時間以上勉強する』は 13.5 ポイントも低くなっています。読書については「全くしない」が 9.3 ポイント、新聞については「読まない」が 9.1 ポイントも上回っています。ネット社会が進む中においても、読書や新聞をとおして得られるものはたくさんあります。学力や社会性、創造力を高めるためにも、新聞を読む習慣、本を読む習慣を身につけてほしいと思います。

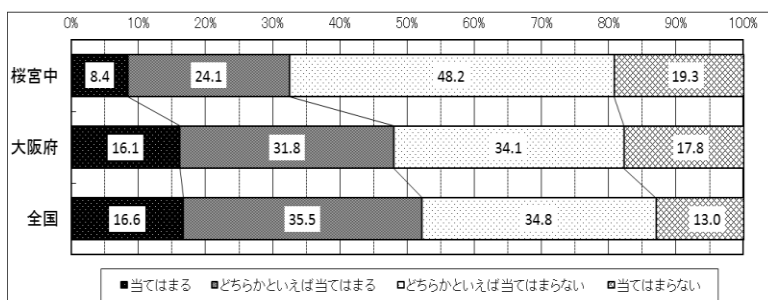
<地域社会とのつながり>

今回の調査で、文部科学省・国立教育政策研究所は、地域や社会で起こっている問題や出来事に関心を示したり、地域社会のボランティア活動に参加したり、新聞を読んでいたりする生徒の学力との相関関係は明確であると示しています。本校では、「桜宮中学校地域クリーン活動」があり、「地域社会でのボランティア活動に参加した」生徒は全国平均より 6.0 ポイント上回りましたが、『地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある』と肯定的な回答をした生徒は全国平均を 6.2 ポイント、『地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがある』は 13.4 ポイント低くなっています。子どもたちが自ら進んで地域や社会の出来事に関心を持ったり、地域・家庭・学校が連携した取り組みを工夫したりするなど、今後の取組について考えていく必要があります。

自分にはよいところがある



家で、自分で計画を立てて勉強をしている



新聞を読んでいる

